

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和5年 6月 22日	
鳥取県知事 様	
提出者	
住 所 鳥取県日野郡江府町大字御机字笠良原1177番	
氏 名 サントリープロダクツ株式会社	
天然水奥大山ブナの森工場	
工場長 栗原 俊明	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号 0859-75-3310	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	サントリープロダクツ株式会社 天然水奥大山ブナの森工場
事業場の所在地	鳥取県日野郡江府町大字御机字笠良原1177番
計画期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：飲料・たばこ・飼料製造業
②事業の規模	前年度の製造品出荷額 31億円
③従業員数	90名

	④産業廃棄物の一連の処理の工程	これより以下、別紙のとおり 別紙1のとおり
--	-----------------	------------------------------

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙1のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 別紙2のとおり			
①現状	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t

		(今後実施する予定の取組)
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した	t	t

	産業廃棄物の量		
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項 別紙3のとおり			

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への の 処理委託量	t	t
	再生利用業者への の 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への の処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への の処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処 理委託量	t	t
	再生利用業者への の 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への の 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への の 処理委託量	t	t

		(今後実施する予定の取組)
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙2 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	金属くず	汚泥・金属くず	汚泥・廃油	汚泥	廃アルカリ	廃酸	廃プラスチック類・金属くず
	排出量 (t)	47.2	11.8	0.05	0.4	974.7	0	597.7	8.5
	(これまでに実施した取組) ・廃アルカリは、濃縮装置導入により排出量10分の1まで削減(2011年～) ・廃酸は、場内処理により、排出量を2019年比で約10分の1まで削減 ・汚泥は2020年末に汚泥減容機を導入し、余剰汚泥に対しては約10分の1削減。これは汚泥排出量全体の約20%の削減 ・廃アルカリは2022年1月より場内処理で30倍濃縮により削減 ・昨年より金属で排出している斗缶については、圧縮することで産業廃棄物として排出しないような取り組みを開始								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	金属くず	汚泥・金属くず	汚泥・廃油	汚泥	廃アルカリ	廃酸	廃プラスチック類・金属くず
	排出量 (t)	40.0	8.0	1.0	0.5	1268.0	0	59.8	5.0
	(今後実施する予定の取組) ・廃棄物排出量削減の取り組みはやり尽くしている状況ではあるものの検討中。								

別紙3 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

		4 【前年度(令和3年度)実績】								
		産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	金属くず	汚泥・金属くず	汚泥・廃油	汚泥	廃アルカリ	廃酸	廃プラスチック類・金属くず
①現状	全処理委託量(t)	47.2	11.8	0.1	0	975	0	598	9	
	優良処理業者への処理委託量(t)	47.2	11.8	0.1	0	975	0	598	9	
	再生利用業者への処理委託量(t)									
	認定熱回収業者への処理委託量(t)									
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量(t)									
	(これまでに実施した取組)									
	【目標】									
②計画	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	金属くず	汚泥・金属くず	汚泥・廃油	汚泥	廃アルカリ	廃酸	廃プラスチック類・金属くず	
	排出量(t)	40.0	8.0	1.0	1	1,268	0	60	5	
	優良処理業者への処理委託量(t)	40.0	8.0	1.0	1	1,268	0	60	5	
	再生利用業者への処理委託量(t)									
	認定熱回収業者への処理委託量(t)									
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量(t)									
	(今後実施する予定の取組)									